

## 2022年度 前期公開講座 帝京ライフロングアカデミー 講座概要

No.	【一般講座】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">申込締切</span> 8月31日(水)
2201	<p><b>そのパスワード、大丈夫?～身近な情報リスクを考える～</b>                      日時：9月6日(火) 10:00～11:30 講師：安部 健太 (高等教育開発センター 助教)</p> <p>2022年6月にInternet Explorerのサポートが終了しました。これは、ソフトの提供元であるマイクロソフト社は、これ以降Internet Explorerに脆弱性が見つかって、問題を修正するプログラムを開発しないことを意味します。このような環境でインターネットに接続して使い続けることは危険ですが、みなさんはこの危険性を理解して利用しているのでしょうか？</p> <p>テレワークが広まったいま、学校や会社など組織内のネットワークの安全を確保するとき、個々の利用者のセキュリティに対する自覚は欠かせません。本講座では、パスワードとマルウェアを中心に説明し、「まずは自分にできること」を見直すきっかけを提供したいと思います。</p>
2202	<p><b>身体のコンドィションを整えるには?!</b>                      日時：9月6日(火) 10:00～11:30 講師：本郷 仁吾 (医療技術学部スポーツ医療学科 講師)</p> <p>夏になると暑さや、クーラーでの室内の温度調整の難しさで、身体のコンドィションが崩れがちな時期です。みなさんの身体のコンドィションはいかがでしょう。当然ではありますが、身体にはコンディションの善し悪しがあります。その善し悪しで、仕事の成果や生活のしやすさ、スポーツでの活動など、コンディションを良い状態に保つことができれば、それぞれの活動に違いが見られるはずですが、そこで本講座では、コンディションを崩す要因は何か。高められる要因は何か。個人差があることですが、コンディションを良好な状態に保ち、より良い生活を送ることができる日常の小さなワンポイントを紹介します。</p>
2203	<p><b>令和の時代の憲法学～ウクライナ危機と同性婚～</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px; color: red;">※2回連続講座</span>                      日時：9月6日(火) 13日(火) 10:00～11:30 講師：中岡 淳 (法学部法律学科 助教)</p> <p>本講座(全2回)は、令和の時代における憲法問題、とりわけ直近で話題となっている時事問題を取り上げ、それらを憲法学の最新の知見を踏まえて解説します。具体的には、①ウクライナ危機と②同性婚の問題について取り上げます。いずれも一筋縄ではいかない問題ばかりですが、関係する憲法の条文の解釈を基本的なところから解説し、まずは、これらの時事問題が、どのように憲法と関わっているのかをある程度正確に理解していただけるような講座内容にします。法学に関する前提知識は必要ありません。また、本講座を通じて、「持続可能な開発目標(SDGs)」で掲げられている「5.ジェンダー平等を実現しよう」、「10.人や国の不平等をなくそう」、「16.平和と公正をすべての人に」といった目標に対する考えを深めることもできるでしょう。</p>
2204	<p><b>スマートフォンで健康になろう!～「すまけん」のススメ～</b>                      日時：9月6日(火) 13:30～15:00 講師：森 玲奈 (共通教育センター 准教授)</p> <p><b>※対象者：スマートフォンをお持ちの方。</b>当日はスマートフォンと筆記具をご持参ください。</p> <p>本講座では、現代では身近となったスマートフォンを活用し、ご自身の健康状態や健康管理方法について気軽に体験的に学ぶワークショップを行います。具体的には、スマートフォンで健康に関するキーワードを検索する際に留意したいことを一緒に学びます。</p> <p>ここで学んでいただいたことは、講座後、おうちに帰っても活用していただける知識・技術になります。本講座の教材は生涯学習の専門家である森玲奈(帝京大学共通教育センター准教授)が企画立案だけでなく、鳥取大学医学部地域医療学講座講師や慶應義塾大学薬学部教授の監修も入ったものになりますので、安心して受講ください。</p>

No.	【一般講座】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">申込締切</span> 8月31日(水)
2205	<p><b>多文化社会のコミュニケーション～「多様性」をみつめ、「やさしい日本語」を使う～</b>  日時：9月6日(火) 13:30～15:00 講師：有田 佳代子(日本語教育センター 教授)</p> <p>「国際化」「多文化共生」の掛け声は高く、コンビニや飲食店などの外国人の店員さんをはじめ、隣人として、職場の同僚として、学校の友人として、文化的背景が異なる人たちを身近に感じ、共に暮らしていくことは日常になりました。しかし、これまでもわたしたちの社会にうっすらと見え隠れしていた人々の「分断」は、コロナ禍によってより顕在化しているのかもしれませんが。本当の意味での「共生」とはなにか、皆が考えることを迫られている時期だとも言えます。多様性を尊重し、心あたたく元気でいきいきとした、持続可能な地域社会を作るため、わたしたちひとりひとりが市民としてどんなことができるでしょうか。多文化社会における地域の共通言語、「やさしい日本語」についても考えます。※グループワークへの参加をお願いします。</p>
2206	<p><b>いろはの茶道～作法も知って生活を豊かに～</b>  日時：9月7日(水) 10:00～11:30 講師：鬼頭 誠(法学部政治学科 教授)</p> <p>昨年度のオンライン公開講座「茶道のイロハ」に続き、茶道の歴史、点茶の実践、お客の心得を学び、抹茶を日常にとり入れるきっかけになることを目指します。  抹茶が元来は薬用だったこと(SDGs3)、あすをも知れぬ戦国武将の心の拠り所が茶道だったこと(SDGs16)、作法を知っておくことにどんな意味があるのか(SDGs16)等を、解説します。  コロナ禍への懸念もあり呈茶や個々の実技指導はできませんが、お申し出があれば学内にある裏千家茶室(広間)の見学会(30分程度)も講座終了後引き続きいたします。</p>
2207	<p><b>ロシアによるウクライナ侵攻～その理由と日本・世界への影響を探る～</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※2回連続講座</span>  日時：9月7日(水) 10:00～11:30 講師：①杉浦 史和(経済学部国際経済学科教授)  ②鈴木 拓(経済学部国際経済学科教授)  9月7日(水) 13:30～15:00 ③中西 俊裕(経済学部国際経済学科教授)  ④二村 英夫(経済学部国際経済学科教授)</p> <p>本年2月24日に始まったロシア軍のウクライナ侵攻は世界を揺るがせました。あれから数カ月が経過した現在も、紛争は続いており、世界の穀物価格やエネルギー価格も上昇しています。こうした状況に鑑み、国際経済学科設立5周年を記念して同学科所属教員4名がこの紛争が勃発した背景や、その日本・世界経済への影響を読み解きます。具体的なテーマは、①ウクライナに軍事侵攻したプーチン大統領の歴史観・世界観、②汚職が生み出すロシア・ウクライナのつながりと軋轢、③西側の対ロシア経済制裁の行方と原油市場、④ウクライナ侵攻の日本及び世界経済への影響の4本です。それぞれ2つのテーマを1回の講義で深掘りしていきます。</p>
2208	<p><b>もしもの時の意思決定</b>  <b>～災害時や人生の終焉等の方が一の時にどんな決断をするか！～</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※2回連続講座</span>  日時：9月7日(水) 14日(水) 10:00～11:30 講師：冲永 隆子(共通教育センター 教授)</p> <p>2020年以降予期せぬパンデミックの難局の時代を迎え、方が一の時、どのような医療・ケアを受けるか、さらに不測の豪雨や地震等の自然災害にどう備えていけばよいのか。</p> <p>共通教育センター所属の担当者が「SDGs4:質の高い」リベラルアーツ教育の実践として、2回の連続講座を行います。①「災害時の意思決定」では、防災・医療の専門ジャーナリスト(元NHK社会部記者)濱田哲郎外部講師との協力で、理論(防災解説20分)と実践(京大クロスロード防災カード70分)。②「人生終焉の意思決定」では、理論(冲永拙書『終末期の意思決定-コロナ禍の人生会議に向けて』解説20分)と実践(もしバナゲーム)を予定しています。調整の関係で①と②の内容が逆になる場合があります。</p>

No.	【一般講座】 申込締切 8月31日(水)
2209	<p><b>日本語の変化を探る旅に出よう</b>            日時：9月7日(水) 13:30～15:00 講師：中沢 紀子(文学部日本文化学科 教授)</p> <p>私たちにとって身近な日本語。意識することなく使いこなしているからこそ、自身のことばについて深く考えることはありません。では、もし過去(たとえばドラマでよく舞台となる戦国時代や江戸時代など)にタイムスリップしたら私たちの日本語は通じるのでしょうか?現代日本語など私たちがよく知る日本語も扱いながら、ことばの変化を探っていきます。</p>
2210	<p><b>よくわかる発達障害～当事者の困りの心理と合理的配慮～</b>            日時：9月13日(火) 10:00～11:30 講師：水内 豊和(文学部心理学科 准教授)</p> <p>発達障害には、学習症(LD)、注意欠如多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)などがあり、これらは脳の機能障害が原因と推定されています。発達障害児・者は、障害特性に起因する各種の能力の遅れ・偏り・歪みの問題と、本人をとりまく社会の側の理解の不十分さとの関係性の中で、生きづらさを抱えます。この講座では、そうした本人の困りの様相や心理的状态について、講義と疑似体験を通して理解します。そして、本人や家族が抱く生きづらさを低減し、生活の質(QOL)を高めるために、周囲の人々はどのような配慮や適切な環境づくりをしたらいいのかについて考えます。            ※一般向けの理解啓発講座のため、当日は、発達障害当事者とその家族、支援者の方に対する具体的なご相談やご助言はできかねますことをご了承ください。            参考：帝京大学心理臨床センター <a href="https://www.teikyo-u.ac.jp/shinri/">https://www.teikyo-u.ac.jp/shinri/</a></p>
2211	<p><b>音楽で心と身体を解放しましょう～楽器を使ってコミュニケーション～</b>            日時：9月13日(火) 13:30～15:00 講師：田崎 教子(教育学部初等教育学科 教授)</p> <p>全ての人の心と身体が健康であることを目指して、音楽療法の概念を基に、リフレッシュできる活動を行います。            声を出したり楽器を奏でたりしながら、音楽的にコミュニケーションを図り、他者と音楽を共有する喜びを体感し、自己表現を実現できる場にします。            学校で音楽教育を受けた後、日常的に音楽に触れる機会が減ってしまった方に、音楽する機会を与え、質の高い音楽活動を通して、音楽が誰にとってもアクセスしやすい媒体であること伝えます。また、音楽する者が増えることにより、殺伐とした今日の社会がより豊かになることを目指します。            ※動きやすい服装で参加してください。</p>
2212	<p><b>ポピュラー音楽のグローバル化とダンス～ラテン音楽のサルサとダンスの魅力～</b>            日時：9月14日(水) 10:00～11:30 講師：田所 承己(文学部社会学科 准教授)</p> <p>近年、社交ダンスだけでなく、フラメンコ、ベリーダンス、フラダンス、バリ舞踊、タンゴなど、年齢に関係なく生涯を通じて異国の音楽やダンスを楽しみ異国文化を学ぶ人が増えています。本講座では、ラテン音楽のサルサとダンスを事例に、異国の文化に触れる魅力について考えてみたいと思います。日本のポピュラー音楽は1950年代のマンボ・ブームに始まり、ラテン音楽の影響を受けてきましたが、1990年代のダンス・ブームや世界的なキューバ音楽ブームを背景に、日本でもサルサダンスの定着が進んできました。講座では、こうした背景やサルサダンスの魅力、また日本のダンス文化の特徴や異国の文化に触れる魅力について皆さんと一っしょに考えていきます。</p>

No.	【一般講座】 申込締切 8月31日(水)
2213	<p><b>合意形成は、なぜ難しいのか？～動画で考えるジャーナリズム論と社会学～</b>            日時：9月14日(水) 13:30～15:00 講師：木下 浩一 (文学部社会学科 講師)</p> <p>SDGsに限らず、何らかの社会的な運動が実社会に影響を及ぼすには、社会的な合意が一定程度、必要となります。その際、決定的に重要となるのが、ジャーナリズムでありましょう。</p> <p>新聞の購読率は低下する一方です。テレビの視聴率も、長期にわたって低下傾向にあります。それらオールド・メディアは、若者に忌避されています。現在のメディア状況は、世代間の断絶を進めているようでありあります。</p> <p>そのような状況下において、合意形成あるいは世論形成はいかにして可能なのか。それが困難である要因は何なのか。社会学やジャーナリズム論、あるいはメディア論の観点から考えてみます。</p>
	<p><b>朝食と胃の健康～東洋医学の視点から～</b>            日時：9月14日(水) 13:30～15:00 講師：閻 淑珍 (外国語学部外国語学科 教授)</p> <p>一日のうち7時～9時の時間帯は、大自然の陽気が完全に活発になり、それに応じて人体の陽気もフル稼働します。この時間帯は胃の働きが活発になるため、食事を摂ると消化されやすく、吸収率も高くなります。胃を丈夫にし、消化吸収系統を良くするには、この時間帯の朝食は何よりも大事です。そして、さらに肝心なことは、何をどう食べるかということです。適切なものを摂れば体のエネルギーになるが、適切でないものは逆効果になります。一日の始まりに摂る朝食は、「胃の好み」に合わせれば、胃はしっかりと働いてくれます。「胃の好み」は何か。毎日撮る朝食と胃の健康、及び現代人の朝食の問題点と亜健康現象について、東洋医学の視点から講義します。</p>
2214	<p><b>朝食と胃の健康～東洋医学の視点から～</b>            日時：9月14日(水) 13:30～15:00 講師：閻 淑珍 (外国語学部外国語学科 教授)</p> <p>一日のうち7時～9時の時間帯は、大自然の陽気が完全に活発になり、それに応じて人体の陽気もフル稼働します。この時間帯は胃の働きが活発になるため、食事を摂ると消化されやすく、吸収率も高くなります。胃を丈夫にし、消化吸収系統を良くするには、この時間帯の朝食は何よりも大事です。そして、さらに肝心なことは、何をどう食べるかということです。適切なものを摂れば体のエネルギーになるが、適切でないものは逆効果になります。一日の始まりに摂る朝食は、「胃の好み」に合わせれば、胃はしっかりと働いてくれます。「胃の好み」は何か。毎日撮る朝食と胃の健康、及び現代人の朝食の問題点と亜健康現象について、東洋医学の視点から講義します。</p>

## 2022年度 帝京大学博物館主催 ミュージアムセミナー 講座概要

No.	【ミュージアムセミナー】 大学で学ぶ日本の歴史 特別編 申込締切 各回の前日
第1回	<p><b>日本列島への人類の渡来</b>            日時：8月27日(土) 10:30～12:00 講師：阿部 朝衛 (文学部史学科 教授)</p> <p>アフリカでヒトの祖先がチンパンジーの祖先から別れ、猿人、原人、新人と進化をしていきました。アフリカから世界中に進出していった人類は日本列島にも到達し、狩猟・採集を中心とした遊動生活から縄文土器を使った定住生活へと生活様式を変化させていきました。本講座では、考古学の発掘調査によって発見された遺跡や出土品から、日本列島へやってきた人類の足跡を探ります。</p>
	<p><b>律令国家と地方社会</b>            日時：9月3日(土) 10:30～12:00 講師：相澤 央 (文学部史学科 准教授)</p> <p>日本の古代国家では、701年に造られた大宝律令に基づいた中央集権的政治を行い、行政機関、交通、政務が整備されていきました。そして、地方では中央から派遣された国司や各地の地方豪族から任命される郡司による地方支配が行われ、地方から都へ租税として様々な特産物が納められていました。本講座では奈良から平安時代にかけての地方の暮らしの実態について考えます。</p>
第2回	<p><b>律令国家と地方社会</b>            日時：9月3日(土) 10:30～12:00 講師：相澤 央 (文学部史学科 准教授)</p> <p>日本の古代国家では、701年に造られた大宝律令に基づいた中央集権的政治を行い、行政機関、交通、政務が整備されていきました。そして、地方では中央から派遣された国司や各地の地方豪族から任命される郡司による地方支配が行われ、地方から都へ租税として様々な特産物が納められていました。本講座では奈良から平安時代にかけての地方の暮らしの実態について考えます。</p>

No.	【ミュージアムセミナー】大学で学ぶ日本の歴史特別編 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">申込締切</span> 各回の前日
第3回	<p><b>「戦後」と「平和」</b></p> <p>日時：9月17日（土）10：30～12：00 講師：浜井 和史（教育学部教育文化学科 准教授）</p> <p>ポツダム宣言の受諾と降伏文書の調印によって日本は連合国の占領下におかれました。その後、1951年のサンフランシスコ講和を経て独立国家としての主権を回復するとともに国際社会に復帰し「経済大国」への道を歩み始めます。しかし、その影には戦後処理や冷戦などの問題が山積みとなっていました。本講座では、それらの出来事について読み解き、「戦後の日本」とはなんだったのかを考えます。</p>
第4回	<p><b>貴族と武士</b></p> <p>日時：9月24日（土）10：30～12：00 講師：木村 茂光（元文学部史学科 教授）</p> <p>白河上皇による院政が始まったころ、東北地方では源氏武士団による軍事的介入である、前九年・後三年合戦が行われていました。また、都では保元・平治の乱といった天皇や貴族の権力闘争にも武士がかかわるようになりました。武士の権威が徐々に大きくなり、鎌倉幕府成立へとつながっていきます。本講座では平安末期から鎌倉時代にかけての貴族と武士の関係性やその変容について考えます。</p>